



「エレファントハウス」

先日は、楽しいクリスマス会でしたね。そこで「賢者の贈り物」というお話がありました。「賢者」とは、何を指すのでしょうか？夜間中に学びに来ている方は、「賢くなる」という目標を持っておられるはずですね。「賢くなる」とは、難しい問題で私にはよくわかりませんが、ヨーロッパでの「賢者」という言葉の使われ方を調べてみました。まず、クリスマス会の「賢者の贈り物」ですが、英語で"The Gift of the Magi"、賢者は"Magi"となっています。作者のオー・ヘンリーは新約聖書の、東方の三博士が贈り物を持ってキリストの誕生を祝いに来たエピソードからこの短編を書き上げたと言われています。この博士達の専門は占星術、すなわち数楽通信で何度も触れているように天文学者、古代の知的な人の代表です。"Magi"は日本では博士とも訳されて、これは"Magic"の語源とも言われています。さらに、今年ハリ・ポッター第一作『ハリ・ポッターと賢者の石』公開二十周年。「賢者の石」とは、一体なんなのでしょう？『賢者の石』は英語では、「Philosopher's Stone」で、Philosopherとは哲学者です。中世以前には、科学者(scientist)という言葉はなく、数学・物理・化学という区別もなく、様々なことを思索する賢い人(プラトンやアリストテレス)は、哲学者(Philosopher)といわれていました。ですから、「賢者」というのは、知識がある、頭の回転が速いだけでなく、むしろ、ゆっくりでも深く考え、真理を追究するという意味が込められていると思います。実利だけを追うのではないという所は、「賢者の贈り物」にも、込められていましたね。ここから、いつものように少し話はそれていきます。中世では、物質の根源を探求し、金以外から金を作り出す錬金術を追求する、錬金術師といわれる人々がいました。漫画では「鋼の錬金術師」がありますね。この錬金術師たちの究極の目標が、金を作るだけでなく、人を不老不死にすることで、それができる不思議な力を持つ石が「賢者の石」でした。化粧品「エリクシール」は錬金術の不老不死の薬の名です。ですから魂だけになった「ヴォルデモート」が手に入れたがっていたのです。この錬金術が盛んだったのは、自然科学の発展するルネサンス以前、中世の暗黒時代といわれる時代で、錬金術師は黒魔術を使い、悪魔と取引する怪しい人と一般の人からは思われていたようです。この錬金術師として、ハリ・ポッターに登場するのが、 Hogwarts 校長ダンブルドアの友人 ニコラス・フラーメルです。物語中では665歳の設定で、賢者の石の製造に成功したという伝説がある人物です。錬金術は魔術のように思われますが、最初、イスラム世界で発展し、化学の発展の土台となり、現在の化学実験器具の原形は錬金術師たちが考え出したものも多いのです。イスラム起源の「アル」の付く科学用語には、「アルカリ」「アルコール」などがあります。そして、この魔術的・非科学的な錬金術に生涯を掛け、最後の錬金術師と言われたのは、他でもない、科学万能時代の扉を開けた、機械仕掛けの世界像(Clock Work Universe)の創造者アイザック・ニュートンなのです。ニュートンの記念碑的書「自然哲学の数学的諸原理」は" Philosophiae Naturalis Principia Mathematica "で Philosophiae すなわち哲学者・賢者の代表といわれるニュートンは錬金術師でもあったのです。*錬金術は十九世紀になって、原子(アトム)の存在が実証され、不可能であることが確定します。